



## 道の駅 みそぎの郷きこない

吉川 衆 司

## 1. 「みそぎの郷きこない」の出発

北海道新幹線で本州方面から青函トンネルを抜け最初の駅が JR 木古内駅。その駅前に位置するのが「道の駅 みそぎの郷きこない」(読み：みそぎのさときこない)です。古くから函館・松前・江差を行き交う人々にとって交通の要衝だった木古内町が、2016年3月の北海道新幹線、道南いさりび鉄道の開業の少し前、2016年1月に現代の交通拠点としての役割を新たに当館が開業されました。開業当初に掲げられた役割は、木古内町を拠点とする道南の西部9町(木古内町・知内町・福島町・松前町・上ノ国町・江差町・厚沢部町・乙部町・奥尻町)の魅力を発信することでした。そしてそのための重点機能として以下の点を備えました。

- ・道南西部9町を中心とした特産品、お土産品を品揃えするショッピングエリア。
- ・道南西部9町の旬でディープな情報に詳しい「観光コンシェルジュ」の常駐。
- ・地元木古内町をはじめ、道南の旬な食材をふんだんに使用したイタリアンレストラン「どうなんdes」。

他にも当館の特筆すべき機能として、「寒中みそぎ祭りブース」があげられます。「寒中みそぎ祭り」は1831年より約200年に渡り当町に伝わる伝統祭事で、当館「みそぎの郷きこない」の名前の由来となります。毎年厳寒の1月13日より4人の男子が当町佐女川神社に籠り、冷水で体を清め鍛錬を積んだのち、1月15日に4体の御神体と共にみそぎ

浜(津軽海峡)に飛び込み御神体を清め、地域の大漁・豊作・繁栄・安全を祈願する奇祭で、そのお祭りの一連をモニターの動画映像で紹介するブースが「寒中みそぎ祭りブース」です。

他にも基本的な機能として、普通車143台(内2台身障者用)、大型車7台を収容可能な駐車場(無料)や、24時間ご利用可能なトイレ。館内には休憩、食事スペースなどお客様が自由にご利用できる



写真-1 道の駅外観



図-1 木古内町位置図



写真-2 みそぎ祭り

多目的ホール、そのホール外には爽やかな風を感じつつ安らげるテラスもご用意しました。また、当館立地の特異性が生んだ機能として、新幹線木古内駅発着情報の提供のための JR 木古内駅直結モニターも設置されました。



写真-3 テラス

## 2. 「みそぎの郷きこない」の変化

2016年1月13日に開業を迎えた当館ですが、時間を待たず様々な「想定外」が起こりました。また、たくさんのお客様からの貴重な声をいただきました。数々の事案の中から、いくつかを紹介させていただきます。

### ・レジ増設

開業当初レジ2台体制で臨みましたが、レジ待ち

のお客様が長蛇の列に。週末のお客様が増加時には、お客様より多数のクレームをいただくこともあり、3か月ほどでレジカウンター増設工事となりました。その後はレジ3台体制として、お客様のレジ待ち時間の減少を計りました。



写真-4 増設後のレジ

### ・ファストフードコーナー移設

開業当初、コンビニエンスストアのようにレジカウンター内でレジスタッフがファストフードを販売しておりました。しかし、想定以上のお客様のご利用でレジカウンター内が混乱状態に。通常のレジ作業に加えての超人気商品のソフトクリームの提供や、コロッケ、カレーパンなどを揚げながら販売する作業の量にカウンター内のスタッフ増員も追いつかず、お客様に大変お待ちいただく状況となり、これも早い対応を迫られました。レジカウンター内ではスペースの問題や設備の問題で解決することが大変困難でした。そこでレジカウンターとは全く切り離し、ファストフードのみを販売するコーナーを館内に増設、誕生したのが「キッチンキーコ」です。壁を破り、貨物用コンテナを活用し、正に突貫工事で出来上がった売り場ですが、この増設が功を奏しメニュー数を増やしながらか多くのお客様に愛される人気コーナーとなりました。中でもダントツの人気メニューは「みそぎの塩ソフトクリーム」で地元木古内

産の塩「みそぎの塩」を味のアクセントに使用した絶品です。その他、木古内産の赤毛和牛を使用した「はこだて和牛コロッケ」や「男爵いもカレーパン」、「みそぎの塩わかめラーメン」など人気メニューが盛りだくさんです。



写真-5 キッチンキーコ



写真-6 みそぎの塩ソフトクリーム

#### ・みそぎガーデン増設

開業からいただいたお客様の声の中で、お子様が楽しめるスペースを求める声もたくさんございました。その声に応えようと、テラス下に増設した小さな公園が「みそぎガーデン」です。滑り台などの遊具を備え、芝生を敷き、パラソル付きのベンチを設置し、後に桜の樹々も植え、小さくてもお客様の憩いの場になることを目指し完成しました。



写真-7 みそぎガーデン

#### ・屋外への洗面所の設置

開業時の想定に比べ大幅に多くのご利用をいただいたのは、キャンピングカーなどの車中泊のお客様もあげられます。朝晩の洗面を心地よくできるスペースを求めていたお客様の声に応える形で、24時間トイレの入り口付近に洗面所を増築しました。現在はシーズンになると多くのお客様にご利用いただいております、順番待ちの行列ができる日も多く目にします。



写真-8 屋外洗面所

#### ・ATMの設置、宝くじ売り場の設置

開業時、当館利用のお客様が増える土・日・祝には木古内町駅前の金融機関ではATMが稼働せず、お客様の不便な点の一つでした。開業より10か月



後、館内に ATM の設置が実現でき、現在は観光のお客様、町内のお客様、ビジネスのお客様など幅広いお客様にご利用いただいております。また同時期、宝くじをお求めのお客様のご要望に応えられるよう宝くじ売り場も設置しました。徐々にお客様のご利用が増え、昨年には当館宝くじコーナーから 2 億 6 千万円の当選券が販売され、億万長者のお客様も飛び出しました。



写真-9 銀行 ATM(海外カード対応)

#### ・発電機の設定

2018 年 9 月 6 日、マグニチュード 6.7 の巨大地震「胆振東部地震」が発生し、全道で電力が止まるブラックアウトが起きました。当館も全ての電力が止まり、様々な問題が発生しました。中でも停電が長引くことで、売り場ショーケース内やバックヤード、倉庫内で在庫していた冷凍・冷蔵商品の保管が大きな問題となりました。9 月の上旬はまだまだ暑さの残る中であり、全在庫品のロスも想像されました。そのような中、幸運にもなんとか町内業者から発電機を調達することができ、最悪の事態を逃れることができました。このことを教訓に、緊急時の電力確保の為に屋外テラス上に発電機を設置しました。

#### ・「魚の日」の強化

当館の定期的な催事で「魚の日」があります。木古

内町前浜で朝水揚げされる旬で生きの良い魚介類をお客様に特価で提供するのが「魚の日」です。木古内町内には新鮮な海産物を販売する鮮魚店はなく、目の前の海で毎日新鮮な海産物が水揚げされるのに、それを町民が買うチャンスがありませんでした。そこでその機能を当館が果たそうと、開業後間もなく「魚の日」をスタートさせました。当初「3 のつく日」毎月 3 日・13 日・23 日にだけ行われ、町内のお客様を中心に徐々にご利用が増えていました。そして、2020 年からのコロナウイルス拡大をきっかけに「魚の日」は強化されることとなります。国や北海道など、行政から発令される「緊急事態宣言」などの行動要請により、当然ながら観光のお客様の人流は顕著に止まりました。そのなかで当館をご利用のお客様層は、木古内町内のお客様の割合が高くなり、それに合わせて売り場も変化しなければなりません。そこで毎月 3 日・13 日・23 日に行われていた海産物の販売を、毎週末の土曜日・日曜日にも行うこととし、木古内町内のお客様の利用の促進を計りました。その結果現在では、町内のお客様の他にも車で 1 時間圏の町外のお客様のご利用が多く定着することとなり、当館の新たな名物の一つとなりました。



写真-10 魚の日

### 3. 「みそぎの郷きこない」のこれから

みそぎの郷きこないでは今年 8 月 5 日「SDGs 宣

言]を公表しました。持続可能な社会創造・実現のために、当社は何ができるのか。全スタッフ、あらゆる立場からの意見を集約しながら会議を重ねまとめたものを「宣言」という形で公表しました。その内容をここで紹介いたします。

#### ・限りある資源の利用、フードロス削減による環境への配慮

「もったいないからはじめよう」をキャッチフレーズにはじまった当社のSDGsへの取り組みですが、道の駅運営にあたって、電気や水、紙などの「もったいない」資源利用はないか、スタッフ全員の共通意識として仕事に取り組もうと決めました。また、大きな社会問題の一つであるフードロスに対して、地域全体でフードロス削減に取り組む活動を当社が中心となり積極的に推進することで、持続可能な地域社会へ貢献していきます。現場の具体的な取り組みとしては、フードロス削減のために在庫管理のさらなる徹底があげられますし、一次産業の生産現場や加工段階のロス材料を利用した商品開発にも取り組みます。

#### ・地域の魅力発信拠点としての地域貢献

木古内町および道南西部9町の魅力発信にさらに力を入れ地域の振興を図り、持続可能な地域創成を目指します。具体的には、地域特産品のさらなる発掘や、どんどん新しく書き換えられる観光マップの作製などがあげられます。また地元の観光資源の維持として、みそぎ祭りの会場となる「みそぎ浜」の清掃活動も引き続き行います。

#### ・職員ひとりひとりに合った職場づくりと人材育成

男女や年齢に関係なく職員間のコミュニケーションを積極的に図れる職場環境を構築すると共に、職員それぞれが個性を生かせるようにサポートします。具体的には職員の適性、興味、能力に合わせた

スキルアップ研修の用意や、多様な職員に対応する柔軟な勤務体系づくりがあげられます。

#### ・防災拠点機能の向上

地域交流の場だけでなく、防災拠点としての機能および体制を整備することも道の駅の重要な役割として災害時に備えた取り組みを進めます。

具体的には、災害時に避難施設として提供し、緊急用電源を確保し、冷凍庫スペースも貸し出すことや、スタッフ全員で火災訓練や人命救助訓練を重ねて、いざという時に備えることにも積極的に取り組んでいます。

以上4項目が「SDGs宣言」の大きな項目ですが、他にも取り組まなければならないことはたくさんあります。例えば、2030年をめどにガソリンエンジン車が生産されなくなる世界的な趨勢の中、当然ながら電気自動車用の充電設備が求められるようになると思われますが、当館駐車場には充電設備がまだ整っていません。理想的には、クリーンなエネルギーで産んだ電気を使用した充電設備の整備が急がれます。

また、ファストフードコーナーでの包材・資材も石油由来の物から植物由来の物への変更も取り組まなければなりません。

---

#### 吉川 衆 司 (よしかわ しゅうじ)

一般社団法人 木古内公益振興社  
道の駅 みそぎの郷きこない センター長

